

高齢者の生きがいと生涯学習

横 澤 厚 彦

(日本生涯教育学会北海道支部)

1. まえがき

北海道の人口動態を、昭和60年の国勢調査に見ると、男2,766,296人(うち65歳以上237,595人…高齢人口比率8.59%)、女2,913,143人(うち65歳以上311,892人…高齢人口比率10.71%)合計5,679,439人(うち65歳以上549,482人…高齢人口比率9.68%)であった。その後、平成元年10月1日現在で、北海道庁が、212市町村から報告を受けた人口動態を見ると、総人口5,702,135人で4年間で22,696人増加している。このうち、65歳以上の人は、86,729人も増えて636,216人となり、高齢人口比率は11.16%と大きく上昇している。北海道の現状は、「高齢化社会」と言うより「高齢社会」化傾向の強い地域社会であると言う事が言えよう。

さて、高齢者をめぐる数多くの問題の中で、現在の高齢者はもちろん、今後高齢者となる世代の人々にとっても考えねばならない大きな問題は、高齢者の「生きがい」の問題である。北海道の高齢人口比率が示すように、北海道の人口動態の中で、65歳以上の男性、女性の増加は著しいものがある。

これら的高齢者が「無為苦」や「孤独苦」に悩んでいるとしたら、それは今日の高齢者の問題であると同時に、やがて高齢者となる世代の人々にも、かかわりのある問題であるだけに、計画的にその対応を考えねばならない。そこで、北海道の高齢者を取り巻く諸問題をとらえ、その対応について検討しながら、特に「生きがい」の問題について考えてみたいと言う事と、やがて高齢者になる世代の人は「高齢者社会」について、どのような意識をもっているのか、明らかにしたいと言う事で、北海道コミュニティ運動協会と北海道生活学校連絡協議会の共同事業として「高齢者の実態調査」が、平成元年度と平成2年度に、それぞれ実施されたのである。

この稿は、この調査結果に基づいて、北海道の高齢者の生きがいと生涯学習について、まとめたものである。

Ⅱ．高齢者に関する実態調査について

高齢者に関する実態調査活動に当たったのは、北海道内14支庁にそれぞれ開設されている「生活学校」の主体メンバーである婦人で、そのほとんどが専業主婦であった。

これらの婦人が、高齢者の実態を知りたいと考えた直接の動機は、急激に増えているこれ等高齢者が、果たして「生きがい」をもって生活をしているのだろうかと言う疑問と、いずれ自分達の問題でもあると言う思いからくる不安であった。その為、生活学校運動の課題として「地域社会における高齢者の生きがいづくり」を設定し、調査結果に基づいて、高齢者の生きがいづくりに役立ちたいと言う気持ちからであった。

(1) 平成元年度の調査「高齢者に関する実態調査」—生きがいに関する調査—

*調査期間 平成元年9月1日～10月25日迄

*調査対象 北海道内に開設されている生活学校57校所在地の、65歳以上の男性及び女性

*標本数 1,200

*調査方法 配票留め置き調査

表1 平成元年度調査対象者一覧

年齢階層別	性別		
	男	女	計
65歳～70歳未満	138 (36.7)	195 (40.5)	333 (38.8)
70歳～75歳未満	99 (26.3)	133 (27.7)	232 (27.1)
75歳～80歳未満	70 (18.6)	79 (16.4)	149 (17.4)
80歳～90歳未満	65 (17.3)	68 (14.1)	133 (15.5)
90歳以上	4 (1.1)	6 (1.2)	10 (1.2)
合計	376 (100)	481 (100)	857 (100)

*抽出法 調査主体が主婦であり、調査対象地は、北海道の14支庁内に開設されている57の生活学校所在地と言う事から、1校当たりの標本数も平均21と少なく、更にこれを世代別にかけて標本を選ぶと言う事であったので、非確率抽出法とした。

*有効回収数は、857

*回収率 71.4%

(2) 平成2年度の調査「高齢者に関する実態調査」—高齢化社会に関する意識調査—

*調査期間 平成2年9月1日～9月30日まで

*調査対象 57の生活学校所在地の、40歳以上65歳未満の男性及び女性

*標本数 1500

*調査方法 配票留め置き調査

*抽出法 平成元年度と同じ、非確率抽出法

*有効回収数は、805

*回収率 53.6%

表2 平成2年度調査対象者一覧

年齢階層別	性別		
	男	女	計
40歳～44歳	41 (14.9)	84 (15.9)	125 (15.5)
45歳～49歳	36 (13.1)	94 (17.7)	130 (16.1)
50歳～54歳	59 (21.5)	100 (18.9)	159 (19.8)
55歳～59歳	60 (21.8)	105 (19.8)	165 (20.5)
60歳～64歳	79 (28.7)	147 (27.7)	226 (28.1)
合計	275 (100.0)	530 (100.0)	805 (100.0)

この調査の問題点は、標本の抽出法にある。しかし、全道規模にわたっての調査であるので、調査結果は「傾向」と言うと考え方で、高齢者の生きがいと生涯学習について考えてみたい。

Ⅲ．高齢者の日常活動と問題点

(1) 高齢者の日常活動調査のねらい

冒頭述べたように、北海道全体の高齢人口比率を見た時、昭和60年10月では9.6%であったのに、平成元年10月には11.6%となり、いわゆる高齢化傾向は、ますます激しくなっているのが実情である。

このように、平均寿命の延長に比例して高齢者の実数が増えていくと、当然出てくる問題は、高齢者の人生が、個人的には悔いのない、充実した日々にするにはどうしたらよいかと言う事であり、社会的には、高齢者のもつ能力を、いかにして地域社会の発展に結びつけるかと言う事であろう。そう言った意味で、高齢者の日常的活動状況が、どのようになっているか明らかにする為、調べてみた。

(2) 高齢者の日常活動と活動の特色

平成元年の調査の中で「あなたは、次の中のどれに参加していますか」と言う問いかけに対する回答は、表3に見るような内容であった。これら活動に対する参加状況の良し悪しは、直接「生きがい」に結びつくものではないが、高齢者がすすんで参加するのは、どのような内容の活動なのかを調べて見たのである。

総括的に見て、男性の上位5位までをあげると、1位は「老人クラブ」(41.8%) 2位は「どれにも参加していない」(25.8%) 3位「町内会活動」(17.8%) 4位「スポーツ活動」(14.6%) 5位「寿大学など高齢者の学習活動」(10.9%)となっており、女性の上位5位までを見ると、1位「老人クラブ」(43.5%) 2位「おけいこ事」(21.8%) 3位「どれにも参加していない」(21.6%) 4位「婦人会活動」(21.2%) 5位「趣味のサークル活動」(18.5%)となっている。

男性、女性共にトップの「老人クラブ」について見ると、年齢の上昇に比例して参加率が高くなっている。

とかく、高齢者は「孤独」になり勝である。その「孤独」は、高齢者の老化を早め、呆けの状態を呼び込んでしまう大きな原因であるだけに、「孤独」から解放される手だてが必要である。そう言う意味で「老人クラブ」は、高齢者にとって身近にある「仲間と交流」のできる場であり、そこに行けば、共通する話題について話し合える同世代の人々がいるのであるから、「老人クラブ」は高齢者にとって、「共感領域」の広場であると言う事が言えよう。

男性の3位に「町内会活動」がある。町内会は多目的集団で、各種の活動を通して「コミュニティを創造する事」を目標とし、実現を目指して活動をしている団体である。

しかし、トータルとしては上位にランクされているものの、男性・女性共

表3 あなたは、次の中のどれに参加していますか

性・年齢別 参加している内容	男 (376人)						女 (481人)					
	65才～ 70才 未満	70才～ 75才 未満	75才～ 80才 未満	80才～ 90才 未満	90才～	計	65才～ 70才 未満	70才～ 75才 未満	75才～ 80才 未満	80才～ 90才 未満	90才～	計
社会教育の講座級活動や各種講座	9 (6.5)	3 (3.0)	2 (2.9)	0 (0)	0 (0)	14 (3.7)	32 (16.4)	9 (6.8)	6 (7.6)	6 (8.8)	0 (0)	53 (11.0)
専攻など、高齢者の学習活動	12 (8.7)	9 (9.1)	10 (14.3)	9 (18.9)	1 (25.0)	41 (10.9)	26 (13.3)	18 (13.5)	10 (12.7)	12 (17.6)	0 (0)	66 (13.7)
町内会、婦人会活動	35 (25.4)	15 (15.2)	12 (17.1)	5 (7.1)	0 (0)	67 (17.8)	59 (30.3)	23 (17.3)	11 (13.9)	9 (13.2)	0 (0)	102 (21.2)
老人クラブ	42 (30.4)	36 (36.4)	34 (48.6)	43 (66.2)	2 (50.0)	157 (41.8)	72 (36.9)	65 (48.9)	35 (44.3)	37 (54.4)	0 (0)	209 (43.5)
趣味のサークル活動	15 (10.9)	4 (4.0)	12 (17.1)	5 (7.7)	0 (0)	36 (9.6)	54 (27.7)	18 (13.5)	9 (9.8)	8 (11.8)	0 (0)	89 (18.5)
おけいこごと(民謡、舞踊、唱歌、ヒアソ、お茶、華道)	7 (5.1)	6 (6.1)	5 (7.1)	6 (9.2)	0 (0)	24 (6.4)	58 (29.7)	28 (21.1)	11 (13.9)	8 (11.8)	0 (0)	105 (21.8)
スポーツ活動	22 (15.9)	12 (12.1)	11 (15.7)	10 (15.4)	0 (0)	55 (14.6)	17 (8.6)	8 (6.0)	4 (5.1)	4 (5.9)	0 (0)	33 (6.9)
宗教活動	4 (2.9)	1 (1.0)	4 (5.7)	8 (12.3)	2 (50.0)	19 (5.1)	16 (8.2)	24 (18.0)	7 (8.9)	11 (16.2)	0 (0)	58 (12.1)
各種ボランティア活動	12 (8.7)	3 (3.0)	3 (4.3)	4 (6.2)	0 (0)	22 (5.9)	37 (19.0)	12 (9.0)	4 (5.1)	5 (7.4)	0 (0)	58 (12.1)
その他	3 (2.2)	4 (4.0)	1 (1.4)	0 (0)	0 (0)	8 (2.1)	2 (1.0)	1 (0.8)	0 (0)	1 (1.5)	0 (0)	4 (0.8)
どれにも参加していない	39 (28.3)	20 (20.2)	21 (30.0)	16 (24.6)	1 (25.0)	97 (25.8)	31 (15.9)	26 (19.5)	27 (34.1)	14 (20.6)	6 (100.0)	104 (21.6)
無回答	6 (4.3)	1 (1.0)	2 (2.9)	3 (4.6)	0 (0)	12 (3.2)	2 (1.0)	1 (0.8)	1 (1.2)	0 (0)	0 (0)	4 (0.8)

に年齢の上昇に反比例して、参加率が低くなってきている。又、女性の場合には「婦人会」活動に対しての参加が上位にランクされているが、女性のみのも異なる年齢集団であるが、価値観が異なる団体だけに、運営上の難しさが一般的に見られる傾向である。しかし、婦人と言う共通の立場で、話し合い、考え合い、実践すると言う活動を通じて、さらにのぞましい婦人としての成長が図られると共に、諸活動を通じて培われた連帯感、婦人を取り巻く問題の解決に当たって協力し合いながら取り組む体制を支え、その結果、婦人の向上と地域福祉の増進に大きく寄与する事になるのであるから、婦人会は婦人にとって、生涯深くかかわっていくべき団体であろう。

だが、婦人会活動に対する参加状況が、年齢の上昇に反比例して低くなっている事は、町内会に対する男性の参加状況と全く同じである。

この年齢の上昇に反比例して参加率が低くなる事は、体力的に集団の活動に対応できなくなったと言う事ではなく、町内会や婦人会の活動内容や運営方法などに、むしろ「団体離れ」の大きな原因があるように思われる。

いずれにせよ、高齢者の「生きがい」とかかわりのある事だけに、一考を要する問題である。特に、この調査に限って問題をあげるならば、「スポーツ活動」以外は、男性より女性の参加状況がすべて上回っていると言う事である。

いわゆる定年後以後の男性は、女性と比較して、意外と諸活動に対して消極的である。

Ⅳ．高齢者の生きがい

(1) 高齢者の生きがいと特色

さて「生きがい」は、人生各期の生活を充実するためにも、かつ、意欲的な生活態度を支えるためにも欠く事のできないものである。良く「生きがい」と言うのは「生きていく上での張り合い」「生活を豊かにする楽しみ」「日常生活の中で、充実感を感じずるもの」「生きていて良かったと満足に思うもの」「毎日の生活の支えとなっているもの」と言うように、いろいろな考え方や意味合いをもっているが、それぞれの人が、今の人生を送る上で、これらのうちのいずれかが、「生きがい」として人々の生活を支える役割りを果たしているものと考ええる。

表4は、日常生活の中で「生きがい」を感じている事柄についてのまとめである。

トータルとして、生きがいを強く感じているものを、男性、女性それぞれ上位5位までをあげて見ると、男性では1位が「趣味に打ち込んでいる時」(29.5%) 2位が「家族と団らんしている時」(28.2%) 3位が「丈夫で仕事ができ、熱中している時」(20.7%) 4位が「老人クラブの行事に参加している時」(17.6%) 5位が「旅行をしている時」(16.2%)となっている。

又、女性については1位が「親しい仲間と集まりをもっている時」(29.5%) 2位は「家族と団らんしている時」(27.7%)と「趣味に打ち込んでいる時」(27.7%)が同率で並び、3位は「旅行をしている時」(21.8%) 4位は「丈夫で仕事ができ、熱中している時」(18.7%) 5位は「老人クラブ

表4 あなたは、今、日常生活の中で、どんな事に「生きがい」を感じていますか
(2つ以内)

性・年齢別 生きがいの内容	男(376人)						女(481人)					
	65才～ 70才 未満	70才～ 75才 未満	75才～ 80才 未満	80才～ 90才 未満	90才～	計	65才～ 70才 未満	70才～ 75才 未満	75才～ 80才 未満	80才～ 90才 未満	90才～	計
家族と関わっているとき	40 (28.9)	23 (23.2)	19 (27.1)	22 (33.8)	2 (50.0)	106 (28.2)	57 (29.1)	32 (24.1)	21 (26.6)	21 (30.9)	2 (33.3)	133 (27.7)
孫の世話をしているとき	8 (5.8)	3 (3.0)	1 (1.4)	3 (4.6)	0 (0)	15 (4.0)	13 (6.7)	11 (8.3)	5 (6.3)	1 (1.5)	0 (0)	30 (6.2)
家事をしているとき	4 (2.9)	2 (2.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (1.6)	20 (10.3)	21 (15.8)	13 (16.5)	7 (10.3)	1 (16.7)	62 (12.9)
外出や買物をしているとき	4 (2.9)	2 (2.0)	3 (4.3)	3 (4.0)	0 (0)	12 (3.2)	26 (13.3)	11 (8.3)	7 (8.9)	6 (8.3)	0 (0)	50 (10.4)
旅行をしているとき	25 (18.1)	15 (15.2)	12 (17.1)	9 (13.8)	0 (0)	61 (16.2)	44 (22.6)	30 (22.6)	18 (22.8)	13 (19.1)	0 (0)	105 (21.8)
趣味に打ち込んでいるとき	40 (28.9)	27 (27.3)	29 (41.4)	14 (21.5)	1 (25.0)	111 (29.5)	63 (32.3)	38 (28.6)	13 (16.5)	19 (27.8)	0 (0)	133 (27.7)
丈夫で仕事ができ、熱中しているとき	41 (29.7)	6 (6.1)	16 (22.9)	15 (23.1)	0 (0)	78 (20.7)	37 (27.3)	20 (20.3)	13 (15.5)	12 (17.6)	1 (16.7)	90 (18.7)
親しい仲間と集まりをもっているとき	27 (19.6)	8 (8.1)	11 (15.7)	10 (15.4)	0 (0)	56 (14.9)	54 (27.7)	40 (30.1)	30 (38.0)	17 (25.0)	1 (16.7)	142 (29.5)
講演や講義をきいて、新しい情報、知識を身につけたとき	9 (6.5)	4 (4.0)	2 (2.9)	2 (3.1)	0 (0)	17 (4.5)	15 (7.7)	10 (7.5)	2 (2.5)	7 (10.3)	0 (0)	34 (7.1)
老人クラブの行事に参加しているとき	17 (12.3)	17 (17.2)	16 (22.9)	16 (24.6)	0 (0)	66 (17.6)	28 (14.4)	26 (19.5)	12 (15.2)	20 (29.4)	0 (0)	86 (17.9)
ボランティア活動に参加しているとき	1 (0.7)	2 (2.0)	3 (4.3)	2 (3.1)	0 (0)	8 (2.1)	16 (8.2)	9 (6.8)	2 (2.5)	2 (2.9)	0 (0)	29 (6.0)
社会のために役立つ仕事できたとき	10 (7.2)	3 (3.0)	5 (7.1)	3 (4.6)	0 (0)	21 (5.6)	17 (8.7)	8 (6.0)	1 (1.3)	1 (1.5)	0 (0)	27 (5.6)
宗教に打ち込んでいるとき	4 (2.9)	2 (3.0)	4 (5.7)	0 (0)	2 (50.0)	12 (3.2)	7 (3.6)	9 (6.8)	2 (2.5)	5 (7.4)	0 (0)	23 (4.8)
一人でのんびりしているとき	17 (12.3)	8 (8.1)	7 (10.0)	8 (12.3)	1 (25.0)	41 (10.9)	20 (10.3)	21 (15.8)	11 (13.9)	11 (16.2)	2 (33.3)	65 (13.5)
町内会や老人クラブ、婦人会などの団体の運営に関わっているとき	19 (13.8)	7 (7.1)	10 (14.3)	7 (10.8)	0 (0)	43 (11.4)	20 (10.3)	16 (12.0)	4 (5.1)	5 (7.4)	0 (0)	45 (9.4)
その他	2 (1.4)	1 (1.0)	0 (0)	1 (1.5)	0 (0)	4 (1.1)	0 (0)	2 (1.5)	1 (1.3)	1 (1.5)	0 (0)	4 (0.8)
何も生きがいを感じていない	4 (2.9)	1 (1.0)	3 (4.3)	4 (6.2)	0 (0)	12 (3.2)	0 (0)	1 (0.8)	2 (2.5)	3 (4.4)	1 (16.7)	7 (1.5)
無回答	6 (4.3)	1 (1.0)	1 (1.4)	1 (1.5)	0 (0)	9 (2.4)	6 (3.1)	5 (3.8)	0 (0)	0 (0)	1 (16.7)	12 (2.5)

の行事に参加している時」(17.9%)となっている。

これらの項目について、世代別に見ると、世代によって関心の度合いが変わっていく状況を見る事が出来る。

例えば、「家族と団らんしている時」「宗教に打ち込んでいる時」「一人でのんびりしている時」は、男性・女性ともに年齢の上昇に比例して「生きがい」を感じずる人の率が高くなっており、「孫の世話」「家事をしている時」「旅行をしている時」「親しい仲間と集まりをもっている時」などは、年齢の上昇に反比例して「生きがい」を感じている人の率は低くなってきている。

又、世代別に見ると、「生きがい」にも世代を反映した状況が見られる。即ち、男性について見ると、65歳～70歳未満の人は「丈夫で仕事ができ、熱中している時」が最も高く、70歳～75歳未満の人は「趣味に打ち込んでいる時」、75歳～80歳未満の人も「趣味に打ち込んでいる時」80歳～90歳未満の人と90歳以上の人は共に「家族と団らんしている時」をあげている。

一方、女性について見ると、各世代のトップは、65歳～70歳未満の人は「趣味に打ち込んでいる時」70歳～75歳未満の人は「親しい仲間と集まりをもっている時」75歳～80歳未満の人も「親しい仲間と集まりをもっている時」80歳～90歳未満の人は「家族と団らんしている時」そして90歳以上の人も「家族と団らんしている時」となっている。

傾向として、男性の若い世代は「丈夫で仕事ができ、熱中している時」であるが、年齢の上昇と共に「趣味」となり、高年齢では「家族との団らん」となっている。

又、女性について見ると、若い世代は「趣味」が多く、年齢の上昇と共に「親しい仲間との集まり」「家族の団らん」となっている。

大雑把な見方をすれば、若い世代は男女共「個人」を中心とした「生きがい」を生活の支えとしているが、年齢の上昇と共に「他人との交わりや家族との団らん」と言った、明るく楽しい人間関係に「生きがい」を感じているようである。

ただ、問題と思うのは、ボランティア活動や団体活動については、男性、女性共に関心の低い事である。こうした社会的活動に「生きがい」をもつ生活態度を育てる為には、今後どのように対応していったらよいか、改めて考えねばならない課題である。

又、生涯学習の観点に立てば「講演や講義をうけて、新しい情報、知識を身につけた時」に生きがいを感じている人は、男性、女性共に低いのは大きな問題である。

(2) 中年期から老年初期（40歳～64歳）の人の考える「生きがい」

さて、次の表5は、平成2年度に実施した40歳から64歳までの男性と女性を対象として調査した中で「生きがい」について調べた内容である。

表5 あなたが老人になった時、何に生きがいを求めようと思いますか(一人三つ)

性別・年齢別 求めようと する生きがい	男 (275)						女 (530)					
	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	計	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	計
趣味をもって毎日楽しく暮らす	30 (73.2)	29 (80.6)	46 (80.0)	33 (55.0)	49 (62.0)	187 (68.0)	57 (67.9)	64 (68.1)	63 (63.0)	73 (69.5)	93 (63.3)	350 (66.0)
配偶者共々健康に留意して、仲良く暮らす	35 (85.4)	20 (55.6)	39 (66.1)	42 (70.0)	54 (68.3)	190 (69.1)	59 (10.2)	68 (72.3)	77 (77.0)	69 (65.7)	92 (62.6)	365 (68.9)
自分の能力の生かせるボランティア活動に参加する	12 (29.3)	12 (33.3)	13 (22.0)	18 (30.0)	25 (31.6)	80 (29.1)	24 (28.6)	37 (39.4)	37 (37.0)	50 (47.6)	51 (34.7)	199 (37.5)
孫の世話をする	2 (4.9)	1 (2.8)	3 (5.0)	2 (3.3)	0 (0)	8 (2.9)	3 (3.6)	3 (3.2)	6 (6.0)	7 (6.7)	6 (4.1)	25 (4.7)
友人と昔話を花を咲かせて、若さをとり戻す	2 (4.9)	1 (2.8)	10 (16.9)	8 (13.3)	14 (17.7)	35 (12.7)	9 (10.7)	10 (10.6)	10 (10.0)	13 (12.4)	32 (21.8)	74 (14.0)
健康で、家の内外の仕事を進んでやる	20 (48.8)	18 (50.0)	23 (39.0)	24 (40.0)	36 (45.6)	121 (44.0)	37 (44.0)	39 (41.5)	46 (45.0)	54 (51.4)	69 (46.9)	245 (46.2)
家事を引き受けて、若い夫婦に協力する	3 (7.3)	1 (2.8)	4 (6.8)	0 (0)	2 (2.5)	10 (3.6)	5 (6.0)	9 (9.6)	7 (7.0)	4 (3.8)	9 (6.1)	34 (6.4)
ゲートボール等、仲間と楽しむ	3 (7.3)	3 (8.3)	7 (11.7)	2 (3.3)	8 (10.1)	23 (8.4)	12 (14.3)	4 (4.3)	8 (8.0)	8 (7.6)	16 (10.9)	48 (9.1)
自分の能力に合った仕事をする	15 (36.6)	18 (50.0)	23 (39.0)	31 (51.7)	32 (40.5)	119 (43.3)	33 (39.3)	39 (41.5)	43 (43.0)	27 (25.7)	44 (29.9)	186 (35.1)
その他	0 (0)	1 (2.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.4)	0 (0)	0 (0)	1 (1.0)	0 (0)	2 (1.4)	3 (0.6)
合計	122	104	168	160	220	774	239	273	298	305	414	1,529

この調査対象人数は、男性275人、女性530人である。男性、女性共に「生きがい」の1位は「配偶者共々健康に留意して仲良く暮らす」(男性69.1%、女性68.9%)である。以下、男性、女性共に「趣味をもって毎日楽しく暮らす」「健康で家の内外の仕事を進んでやる」「自分の能力に合った仕事をする」と言う順序で生きがいについての関心を示している。

この調査に現われた回答は「老人になったら」と言う、これから体験する

世代を予測して、現役の立場にいる人々が答えたものであるから、多分に当為としての考え方であるが、大筋では、65歳以上を対象として実施した調査結果と一致していると言う事が言える。

しかし、65歳以上を対象とした調査で、極めて低かった「ボランティア活動」は、この調査では男性29.1%、女性37.5%とやや高く、一般に高いと考えられている「孫の世話」「友人との交流」「家事についての協力」「ゲートボール等を通じての仲間との楽しみ」と言った事は、意外と「生きがい」を感じている人が少ない。

平成元年の調査（65歳以上）と平成2年の調査（40歳以上64歳まで）を比較して考えさせられる事は、共通する上位の「趣味」「家族との団らん…平成2年では、配偶者共々健康に留意して、仲良く暮らす」については、65歳以上は、いずれも30%未満なのに対し、40歳から64歳までの人は、共に70%に近い関心の高さを示している。

ここに、実態と当為の大きな開きを見る事ができる。願わくば、当為としての意識が、現実の生活となるよう若いうちから、どのような努力をする事が適切なのか真剣に考え、その実現に向かっている実践が行われなければならない。

(3) 中年期から老年初期の人が、老年期に対して抱いている不安

40歳から64歳までの男性と女性に対し「老人になった時を考え、何か不安に感じている事がないか」と言う質問をした。その結果、総体的に見て不安を感じている人は、男性275人中46.2%、女性530人中67%の人が感じていると回答を寄せている。

その不安の内容は、表6の通りである。

この表に現われているように、「困っている事」「不安に感じている」事の内容には、65歳以上の人と共通する点が多い。

65歳未満の人が予測する不安材料は、その事に対する不安度の強弱に関係なく、それは老後の安定した、しかも生きがいに満ちた生活をつくりあげていく上で、障害となるものであるから、若い時から「不安材料」を解消する為の計画的な対応が必要である。

(4) 老後の生活設計について

平成2年度の調査で、65歳未満の男性、女性に対し「老後の生活設計について、どのように考えているか」質問をした。その結果は、表7の通りである。

表6 今あなたは、老人になった時を考え、何か、不安に感じていることがありますか
(不安に感じていること、二つ以内)

性別・年齢別 不安の有無 と不安の内容		男						女					
		40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	計	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	計
感じていない		22 (53.7)	17 (47.2)	30 (50.8)	28 (46.7)	45 (57.0)	142 (51.6)	33 (39.3)	27 (28.7)	28 (28.0)	29 (27.6)	44 (29.9)	161 (30.4)
感じている		19 (46.3)	17 (47.2)	29 (49.2)	30 (50.0)	32 (40.5)	127 (46.2)	51 (60.7)	65 (69.1)	68 (68.0)	74 (70.5)	97 (66.0)	355 (67.0)
無 回 答		0 (0)	2 (5.6)	0 (0)	2 (3.3)	2 (2.5)	6 (2.9)	0 (0)	2 (2.1)	4 (4.0)	2 (1.9)	6 (4.1)	14 (2.6)
合 計		41	36	59	60	79	275	84	94	100	105	147	530
不 安 に 感 じ て い る 内 容	経済的(生活費など)に不安を感じている	16 (84.2)	14 (82.4)	15 (51.7)	11 (36.7)	15 (46.9)	71 (55.9)	39 (52.7)	34 (52.3)	35 (51.5)	39 (52.7)	33 (22.4)	180 (50.7)
	健康に自信がないので、不安である	2 (10.5)	3 (17.6)	3 (10.3)	11 (36.7)	8 (25.0)	27 (21.3)	18 (24.3)	30 (46.2)	33 (48.5)	34 (45.9)	61 (41.5)	176 (49.6)
	特に趣味もないので、毎日のように暮らそうかと、不安を感じている	1 (5.3)	0 (0)	2 (6.9)	4 (13.3)	3 (9.4)	10 (7.9)	3 (4.0)	3 (4.6)	3 (4.4)	6 (8.1)	4 (2.7)	19 (5.4)
	定年後、再就職の道があるかどうかと不安な気持ちをもっている	4 (21.1)	5 (29.4)	9 (31.0)	4 (13.3)	2 (6.2)	24 (18.9)	9 (12.1)	6 (9.2)	9 (13.2)	3 (4.1)	1 (0.7)	28 (7.9)
	配偶者が丈夫でないので、2人っきりになった場合を考え不安である	5 (26.3)	0 (0)	1 (3.4)	4 (13.3)	3 (9.4)	13 (10.2)	1 (1.4)	6 (9.2)	2 (2.9)	5 (6.8)	6 (4.1)	20 (5.5)
	子どもが、娘ばかりで、めんどろを見てくれるかどうかと、不安である	0 (0)	1 (5.9)	1 (3.4)	0 (0)	4 (12.5)	6 (4.7)	0 (0)	4 (6.2)	2 (2.9)	5 (6.8)	5 (3.4)	16 (4.5)
	息子たちの生活にも余裕がみられないから	1 (5.3)	0 (0)	1 (3.4)	1 (3.3)	4 (12.5)	7 (5.5)	2 (2.7)	5 (7.7)	4 (5.9)	4 (5.4)	7 (4.8)	22 (6.2)
	余り友人もないので、孤独になるのではないかと不安である	0 (0)	0 (0)	1 (3.4)	0 (0)	2 (6.2)	3 (2.4)	0 (0)	1 (1.5)	2 (2.9)	3 (4.1)	1 (0.7)	7 (2.0)
	困った時、相談する人や施設について知らないで、不安である	0 (0)	1 (5.9)	0 (0)	0 (0)	1 (3.1)	2 (1.6)	1 (1.4)	0 (0)	1 (1.5)	5 (6.8)	3 (2.0)	10 (2.8)
	そ の 他	2 (10.5)	0 (0)	3 (10.3)	0 (0)	1 (3.1)	6 (4.7)	1 (1.4)	0 (0)	3 (4.4)	5 (6.8)	4 (2.7)	13 (3.7)
合 計		31	24	36	35	43	169	74	89	94	09	25	491

表7 あなたは、今、老後の生活設計についてどのようにお考えですか

性別・年齢別 老後の生活設計	男						女					
	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	計	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	計
老後の生活が幸せであるように、しっかりした計画を立てたいと考えている	19 (46.3)	12 (33.3)	24 (40.7)	27 (45.0)	20 (25.3)	102 (37.1)	33 (39.3)	40 (42.6)	31 (31.0)	35 (33.3)	56 (38.1)	195 (36.8)
将来の事は気になるが、特に計画を立て対応しようと考えていない	14 (34.1)	13 (36.1)	15 (25.4)	18 (30.0)	25 (31.6)	85 (30.9)	26 (31.0)	35 (37.2)	36 (36.0)	31 (29.5)	26 (17.7)	154 (29.1)
将来の生活を考えるより、現在の生活を楽しみたい	3 (7.3)	4 (11.1)	5 (8.5)	5 (8.3)	8 (10.1)	25 (9.1)	8 (9.5)	5 (5.3)	9 (9.0)	11 (10.5)	28 (19.0)	61 (11.5)
毎年計画を立てて(短期計画)状況に応じ柔軟に対応していきたい	3 (7.3)	4 (11.1)	13 (22.0)	8 (13.3)	11 (13.9)	39 (14.2)	16 (19.0)	7 (7.4)	14 (14.0)	13 (12.4)	15 (10.2)	65 (12.3)
特別に生活設計を立てる必要はないと思う	1 (2.4)	1 (2.8)	2 (3.4)	2 (3.3)	8 (10.1)	14 (5.1)	0 (0)	3 (3.2)	5 (5.0)	6 (5.7)	10 (6.8)	24 (4.5)
その他	1 (2.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2.5)	3 (1.1)	1 (1.2)	2 (2.1)	1 (1.0)	4 (3.8)	3 (2.0)	11 (2.1)
無回答	0 (0)	2 (5.6)	0 (0)	0 (0)	5 (6.3)	7 (2.5)	0 (0)	2 (2.1)	4 (4.0)	5 (4.8)	9 (6.1)	20 (3.8)
合計	41	36	59	60	79	275	84	94	100	105	147	530

総体的に見れば、男性、女性共にトップは「老後の生活が幸せであるように、しっかりした計画を立てたいと考えている」である。しかし、そのような意識をもっているのは、男性37.1%、女性36.8%である。

従って、男性の62.9%、女性の63.2%は、表に見る通り「老後の生活設計」については、極めて消極的か、ないしは無関心である。

65歳未満のこれらの人々は、「老人になった時」を予測して、男性は46.2%の人が、女性は67.0%の人が、不安を感じていると回答を寄せているのに、「老後の生活設計」について関心の低いのは、どこに原因があるのであろう。

どうも、65歳未満の人びとの意識の中には、老後の生活を、近い将来の問題と考える意識よりも、「まだまだ先の事」といった安易な意識があるように思われる。このへんに、「高齢化社会」の問題が、「高齢者問題」になってしまう大きな原因があるように思われる。

V. 高齢者の日常活動と生きがいの相関

(1) 日常活動に参加しない理由

3で「高齢者の日常活動と問題点」について述べたが、これらの活動が、即、「生きがい」ではないとしても、極めて「生きがい」となる可能性のある内容である。

つまり、このような活動に参加しているうちに、これらの活動に意義を感じ、張り合いを覚え、高齢者の充実した日常生活を支える「生きがい」に発

表8 参加しない理由は何ですか

性・年齢別 参加して いない理由	男 (97人)						女 (104人)					
	65才～ 70才 未満	70才～ 75才 未満	75才～ 80才 未満	80才～ 90才 未満	90才～	計	65才～ 70才 未満	70才～ 75才 未満	75才～ 80才 未満	80才～ 90才 未満	90才～	計
参加する意欲がわいてこない	15 (38.5)	3 (15.0)	9 (4.3)	7 (43.8)	0 (0)	34 (35.1)	8 (25.8)	5 (19.2)	5 (1.9)	3 (21.4)	0 (0)	21 (20.2)
暇がない	19 (48.7)	5 (25.0)	2 (1.0)	2 (12.5)	0 (0)	28 (28.9)	10 (32.3)	5 (19.2)	2 (0.7)	1 (7.1)	0 (0)	18 (17.3)
体の具合が悪い	9 (23.1)	8 (40.0)	9 (4.3)	6 (37.5)	0 (0)	32 (33.0)	10 (32.3)	13 (50.0)	15 (55.6)	6 (42.9)	2 (33.3)	46 (44.2)
費用がかかる	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.0)	1 (3.2)	2 (7.7)	1 (3.7)	0 (0)	0 (0)	4 (3.8)
身近かに、こうした団体も学習の場もない	1 (2.6)	1 (5.0)	1 (4.8)	0 (0)	0 (0)	3 (3.1)	4 (12.9)	1 (3.8)	0 (0)	0 (0)	1 (16.7)	6 (5.8)
誘ってくれる仲間や友人がいない	2 (5.1)	2 (10.0)	1 (4.8)	0 (0)	0 (0)	5 (5.2)	1 (3.2)	0 (0)	1 (3.7)	0 (0)	1 (16.7)	3 (2.9)
呼びかけがないのでわからない	1 (2.6)	1 (5.0)	0 (0)	1 (6.3)	0 (0)	3 (3.1)	3 (9.7)	1 (3.8)	1 (3.7)	1 (7.1)	0 (0)	6 (5.8)
家族が、外に出ると心配するので出れない	1 (2.6)	2 (10.0)	0 (0)	2 (12.5)	0 (0)	5 (5.2)	2 (6.5)	2 (7.7)	2 (7.4)	4 (28.6)	0 (0)	10 (9.6)
参加したいと思う活動も団体もない	1 (2.6)	4 (20.0)	3 (14.3)	3 (18.8)	0 (0)	11 (11.3)	1 (3.2)	9 (3.5)	4 (14.8)	1 (7.1)	1 (16.7)	16 (15.4)
人間関係が煩わしい	3 (7.7)	2 (10.0)	1 (4.8)	2 (12.5)	1 (100.0)	9 (9.3)	4 (1.3)	2 (7.7)	2 (7.4)	1 (7.1)	0 (0)	9 (8.7)
その他	3 (7.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3.1)	1 (3.2)	0 (0)	0 (0)	2 (14.2)	2 (33.3)	5 (4.8)
無回答	0 (0)	1 (5.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.0)	1 (3.2)	2 (7.7)	2 (7.4)	0 (0)	0 (0)	5 (4.8)

展していくであろうと考えられる。

3の「高齢者の日常活動」の表の中に、「どれにも参加しない」と言う人が、男性25.8%、女性21.6%と、かなり高い率を示していた。これらの「参加しない人」は、どこに原因があって参加しないのであろう。

表8は、その参加しない理由をまとめたものである。

この表から見て、男性、女性共に上位4位までは、一部順位は違うが共通する不参加理由である。即ち「参加する意欲がわいてこない」「体の具合が悪い」「暇がない」「参加したいと思う活動も団体もない」である。

これらの不参加の理由の中で、「体の具合が悪い」は、男性は2位、女性は1位となっている。生きがいは、何といても心身共に健康である事が基盤であり、「生きがい」を感じて行う諸活動の前提である。

したがって、「医療的対策」と合わせて、それぞれの人に合った「健康づくり」メニューをつくり、計画的、継続的に実践する意欲と努力が必要である。

次に、問題なのは「参加する意欲がわいてこない」である。本来、日常的に地域で行われる活動について、潜在的には「参加したい」と言う気持ちがあっても、提示されたプログラムの内容が、自分達の「学習要求」や「活動要求」に合わない為、不参加と言う事になったとしたら、学習又は活動の機会を提供する立場にある者の責任は大きい。

又、「暇のない」忙しい事は結構な事であるが、生活時間のプログラム化によって、学習活動やボランティア活動への参加や趣味の活動に費やす時間を生み出し、「働く事」に加えて、自分の生活に潤いとゆとりをもったり、他の人々や地域社会の発展に貢献する活動を通じて実感する「充実したさわやかな」心情をもつ事も、大事な「高齢者の生きざま」であろうと考える。

そういった意味で、「生きがい」になる可能性をもつ日常活動のあり方については、慎重な計画と準備のもとに実施する配慮が必要である。

(2) 日常活動と生きがいの相関

前述した日常活動に参加している状況と生きがいの内容について比較してみると、誠に複雑な思いがするのである。

例えば、男性が老人クラブに参加している状況は、男性376人の41.8%で一番多いが、生きがいの表を見ると、男性376人中17.6%の人が、老人クラブの活動に生きがいを感じているにすぎない。

つまり、老人クラブの活動は、月に1～2回であり、孤独な高齢者のつれづれを慰めてくれるものとしては、手頃な集まりであると言った意味での楽しさがあるから出席はするが、クラブに参加して活動をする事が、生きがい

であると言うところまでは、高齢者の心をとらえてはいないと言う事であろう。

同様に、町内会活動への参加率は17.8%であるが、町内会活動に生きがいを感じている人は11.4%となっている。

寿大学などへの参加は、男性376人中10.9%であるが、学習活動に生きがいを感じている人は僅か4.5%である。

こうした、日常活動に対する参加状況とその活動に対する生きがい感は、必ずしも整合しない。この傾向は、女性の場合も全く同じである。

高齢者を対象とした数多くの日常活動に参加しても、生きがいの形成に至らない大きな原因は、参加した体験が、高齢者の人生に「充実感」や「満足感」や「生活に希望のわく楽しさ」や「高齢者の人生に生きる喜びと意欲を与えてくれる」といった実感の伴うものでなかったと言う事であろう。

Ⅵ. 高齢者の生きがいづくりと生涯学習

平成元年の調査で、65歳以上の男性と女性に、今後生活を有意義に楽しく送る為、今、どのような事を身につけたいと考えているか、又、どのような実践活動をしたと心に期しているか、その内容について記述してもらった。次は、男性、女性に共通していた内容である。

- (1) 健康を維持し、増進をする方法を身につけて実践したい。
- (2) 変化していく時代に対応できる知識を身につけたい。
- (3) 老後の生活に趣味をとり入れ、生活の支えとしたい。
- (4) 高齢者でも対応できるボランティア活動に参加したい。
- (5) 思いやりのある人間関係づくりをしたい
- (6) 老人クラブに入り、心の中を打ちあける事のできる友人をつくりたい。
- (7) 若い世代と活発に交流をし、連帯して地域づくりにはげみたい。

と言うように、多岐にわたる提案があった。

現役時代には、余り関心をもっていなかったこれ等の事が、老後の生活を送る中で、極めて大事な事と自覚し、積極的に取り組もうとして記述したものであろう。

今、高齢者をめぐる諸問題の発生要因を考えると、高齢者に至る人生の中で、人間形成を目指す計画的、継続的な学習が行われていなかったのではないかと思われる面が多く目につくのである。

そうしたツケが、高齢者の抱える今日の問題となっているように思われる。

152 自由研究

老後のために若い人が学習をしなければならないのではなく、「今の自分を向上させ」家庭や社会に貢献する活動を、実践していく事が、老後の人生を充実する基盤になると言う事を、高齢者が生涯をかけて反省した結論として、若い世代に伝えたいと考えている。